

2008年(平成20) 1月

カルメル
霊性センターニュース



ミケランジェロ 聖家族

228号

「キリスト者の年の初め」

中川 博道 (カルメル会司祭)

わたしたちキリスト者はいつもクリスマスの余韻の中で新年を迎えます。典礼暦の新年である待降節は、主との深い出会いへとわたしたちを準備し、今、幼子イエスを迎えたものとして、わたしたちはこの新しい年の初めに立っています。

わたしたちの“年の初め”はここからです。ラテン語の“初めに *In principium*”は、時間的な始まりだけではなく、“物事の原理や原則、原因や起源において”と言う意味も含まれています。“人生を根底から見つめなおすこと”から真にはじまっていくことです。“年の初め”にもう一度思い巡らすことは、生きていることの根底を支えつづけていくくださるお方の神秘です。

ベネディクト 16 世教皇様は、2008 年を“パウロの生誕 2000 年の年”と定め、パウロと共にイエスとの根源的なかわりを見直す年とされました。パウロの生き方は、ある日突然パウロを捕えて決して放すことのなかった、内なるイエスの現実から絶えず出発しなおすことでした。パウロは何度も言っています。

生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。

(ガラティア 2.20)

だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。

(ローマ 8.35)

「闇から光が輝き出よ」と命じられた神は、わたしたちの心の内に輝いて、イエス・キリストの御顔に輝く神の栄光を悟る光を与えてくださいました。ところで、わたしたちは、このような宝を土の器に納めています。この並外れて偉大な力が神のものであって、わたしたちから出たものでないことが明らかになるために。イエスの命がこの体に現れるために。……死ぬはずのこの身にイエスの命が現れるために。

(2 コリント 4.参照)

パウロが生きたのは、神学者としての思索を生きる前に、イエスの絶え間ない内なる訪れを受けている者として、ダイナミックな神秘を抱えている存在としての自分を生きることでした。そのように生きながら、全くの異教世界であったローマ帝国が中からキリスト化されていくプロセスの初めを生きていったのです。

更に混迷を深めていくかに見える新しい年 2008 年を、教皇様の掲げられた“パウロの年”に伴われて歩み、わたしたちの内を訪れてくださるお方を存在の根底に受け止めながら、真実な新しい年を願いながら、創造的にこの世界を変容させていくイエスに生きることが出来ますように。

皆さんの新しい年のうえに、命の源であるお方からの祝福と平和がありますように。

心の泉



泉の心



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd
帰天40周年にあたって (13)

神の愛

これこそが

わたしたちの宝

わたしたちの希望

—幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd



新しい年は神の母の祝日ではじまります。二〇〇八年元日の日の出におそらく多くの方は、特別の思いをいだかれることでしょう。最近打ち上げられたロケット「かぐや」が送ってくれた「地球の出」の映像・・・あばたの月面の向こうの深い闇に青く美しくわたしたちの地球が浮き彫りにされたあの瞬間の感動！ 地球から月を眺めているわたしたちが、月面から地球を眺めたのです！ 通常の視点が逆になった一瞬でした。

新しい年のはじまりにあたって、日々の尽きることのない問題、困難、事故、事件などを、視点を変えて神のまなざしのもとに眺めたいものです。

マリー・エウジェンヌ神父は、わたしたち一人ひとりをかけがえのない「子」として愛される神の愛こそがわたしたちの宝なのだと言います。平凡な日々の出来事を神のまなざしでとらえ直すとき、神の愛のうちに果てしない希望を見出すことでしょう。

「神の存在、その命とは、『ご自身を与えること』です。神はご自分の愛を絶えず注ぐことしかおできになりません。『何故生きているのか』と自分に問いかけ、理由を捜す必要はないのです。答えはただ一つ。神がわたしを愛されたということです。神は愛によりわたしを呼ばれました。わたしを創造された愛は常に生きています。神が愛されたものは、常に愛されています。わたしにくださったものは、いつもわたしのものです。あなたのうちにはじめたことを神は必ず成し遂げられるでしょう。」

このような神の愛にこそわたしの宝、希望があることを力強く信じることができるよう神に願いましょう。神の愛がわたしたちの生活での具体的な生き方に影響を及ぼすまでに。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

『必要なことは、ただ一つだけ』(31)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

統合感覚と祈り (続き)

体に対するこの執着は、不自然な生活スタイルと恐れを造り出し、私たちがそのままでいることを妨げ、ふりかかる運命に対し平静であることを難しくさせます。ひたすら外見にのみこだわる生き方は、私たちの真の本質は、体の内にある形のないものであるという事実を受け入れがたくさせます。私たちが体や外見にとらわれれば、とらわれるほど、形の背後に入り、真に深く内在する神性を見るチャンスは、ますます少なくなります。外的な形におぼれることは、人間性のもっとも大きな部分を占めている無形のものを見ることから、私たちを遠ざけてしまうのです。それゆえ、すべてを一致させてゆく統合感覚は、私たちが通常感覚を超えて、私たちの内なる宝を見出す旅を助けてくれるのです。私たちは、徐々に自分の内なる自己へと浸透して行き、静かな沈黙の中へ入ってゆくのです。そこで私たちは、「静かにせよ、そして私が神であると知れ」(詩 46:10) とささやく神と出会うのです。

8. 「体のともし火は目である」(マタイ 6:22)

二三年前、ローマで神学生の世話する仕事をまかされました。或る時、私たちは皆で専門のガイドと共にヴァチカンの博物館へ行きました。正午になると、私は、ほとんどすべての神学生が疲れ果て、物を見る気力を失っているのに気づきました。ガイドも短い休憩を取りに行ってしまった。それを知って、私は神学生たちの前に行き、単純な絵の前に立ち、それを眺めました。神学生たちも私の周りに集まり、同じ絵を眺めました。一人の学生が、私にその絵の重要性についてたずねました。私は彼に、それはフランスから輸入されたもので、USドルで200万ドルの値段だったと言いました。このメッセージはすばやく神学生の間を広まり、多くの学生がその絵の写真を撮り始めました。彼らの好奇心がわきあがり、物を見る気力がもどってきたのが分かりました。何人かは、その絵の前でグループ写真を取ることを提案しました。そうです。そこで私たちは、その絵を分析し、さまざまな解釈をしながら、20分から25分も時間をついやしたのです。ガイドがもどってくる前に、私は、このでっちあげの話がばれないように、

すばやく他の絵を見るためその場から移動しました。実際のところ、その絵はそれほど価値のあるものではなく、おそらくわずかなドルで買えたものだったのです。しかし、私が彼らに、それは200万ドルの価値があると言ったため、とても重要なものとなったのです。これが、私たちが何かを見ることに価値を置く時に、起こることです。普通、私たちは、作られたものがどれだけ価値あるものかを知らずに眺めています。私たちがそれに価値を見出す時、それは違ったもの、すばらしいもの、価値にあふれたものとなって立ち現れます。もし私たちが神の见えない手が全被造物を形作っているのを見、神の手のわざとなる無数の価値あるものを眺めるならば、自ずとそれらを評価し始め、それらを違った風に見ることができるようでしょう。

イエスは、「体のともし火は目である。目が澄んでいけば、あなたの全身が明るい、濁っていれば、全身が暗い。だから、あなたの中にある光が消えれば、その暗さはどれほどであろう」(マタ6:22-23)と言っています。イエスは私たちの視覚、ものを見る見方に触れています。普通私たちは悲しいと、何を見てもどんよりと陰鬱に、ほとんど絶望的に見えてきます。幸せであると、すべてが命と美に満ち、すばらしく見えてきます。私たちは皆、自分の周りにあるものをあるがままに見ており、私たちは客観的であると思っています。しかし、そうではありません。私たちは世界を、あるがままにではなく、私たちのあるがままに見ているのです。私たちは世界を見るように創られています。私たちはそれを、自分自身の個人的な体験や予め考えられた判断や先入観によって作られたユニークなレンズで見ているのです。

しばしば私たちは、現実に対し内的な目を閉ざしてしまい、その結果、命の内的現実、すなわち、精神や愛や喜びや親切や共感などの現実をつかむことができなくなっています。私たちは、先入観や不安や心配で覆われた目を通して、それらを眺めているのです。完全でない教育によって、私たちは世界のゆがんだヴィジョンを持っているのです。世界は、私たちがそれを見る見方に応じて、姿を現すのです。そこには楽観的なものと悲観的なものがあります。墮落した歪んだ見方の人は、墮落や歪曲や欲望などしか考えません。それゆえイエスは、「私は言うておく。みだらな思いで女を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである」(マタ5:28)と言うのです。

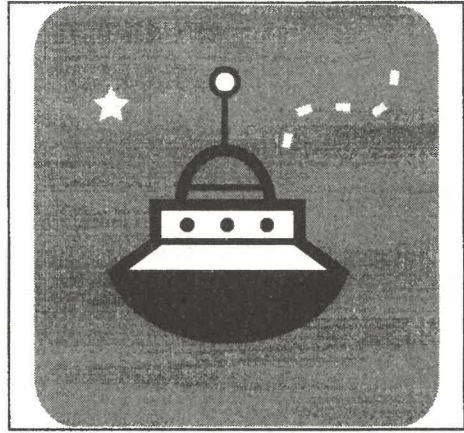
(続く)

くのり
九里 彰訳

ヘンリ・ナーウエンの

『旅路の糧』

(106)



全宇宙の再生

私たちの天のふるさとへの最終的な帰還には、単に私たちや仲間の人間存在だけでなく、すべての被造物が含まれているのです。神の子どものまったき自由には、全地も与るべきであり、復活による完全な再生は、宇宙の再生も含んでいるのです。それは、キリストによる神の贖いのわざの偉大なヴィジョンです。

パウロは全被造世界を、新しい命の誕生を熱心に待ち望みながら、産みの苦しみを味わっている婦人のように見なしています。「被造物は虚無に服していますが、それは自分の意志によるものではなく、服従させた方の意志によるものであり、同時に希望も持っています。つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子どもたちの栄光に輝く自由にあずかれるからです」(ロマ8:20~21)。神が創造されたものはすべて、神の栄光の中へ上げられるでしょう。(1208)

新しい天と新しい地

イエスが生まれるずっと以前に、預言者イザヤは、すべてを一つにするキリストの偉大な救いの業のヴィジョンを見ました。イエスが死んで大分たってから、愛弟子であったヨハネは別の、しかしよく似たヴィジョンを見ました。つまり、彼は新しい天と地を見たのです。すべての被造物が変容され、キリストの完全な花嫁となるために不死性を身にまもっていました。ヨハネのヴィジョンでは、復活したイエスは王座から、こう語っていました。「見よ、私は万物を新しくする。…見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである」(黙21:5; 21:3-4)。

イザヤもヨハネも共に、すべての被造物におよぶキリストの救いの業の本質へと、私たちの目を開いてくれるのです。

(1211)

くのり
九里 彰訳

***** みことばのひびき *****

主の公現（A）

「わたしたちはその星を見て、拝みにきました」

（マタイ 2：1～12）

本日祝う祭日の「ご公現」とは、文字通りには「現す」を意味しています。公現は、それまで覆われ隠されていたものをはっきり明白にすることを意味します。ですから、本日わたしたちはある種の覆いをとることを祝うのです。これはかいばおけの中にいた赤ちゃんを通して起きたことです。この赤ちゃんは何の覆いを取り、はっきりさせたのでしょうか？

このことに関して、初期の司教であるピーター・クリソロウス神父はこのように書いています：「三博士は、深く驚嘆して自分たちが見ているものを見つめます：この世の天国、天国におけるこの世、神の中の人間、人間の中の神、全宇宙が容れることのできないものを、今この小さな体の中に包み込んでいるもの。」

公現の祭日は、神が真に誰であるかを、そしてわたしたちが真に誰であるかを示します。クリスマスの光が表し明白にしているものは、人間がイエスの中にそしてわたしたちの中に神ご自身が表わそうとしている手段となったということです。ご公現はクリスマスの季節のクライマックスであり、ご公現は神がイエスの中にご自身を表すことを選び、そして今も神はご自分の生命やわたしたち人類への愛を表し続けているということです。わたしたちは今、神の生命や愛が地上の肉の中に住む場所となっているのです。神はわたしたちを通して生き、愛してくださいます。

ラビの物語によいたとえ話があります。一人のラビが彼の学生たちに「あなたは、いつ夜が終わり、夜が明け始めるかをどうやって見分けますか」と質問します。一人の学生は、「遠くに動物が見えて、それが山羊か羊か見分けることができるときです」と答えました。ラビは違うといいました。別の学生は、「遠くに樹木が見えて、それがいちじくの樹かどうか見分けることができるときです」と答えました。ラビは再び違うといいました。そこで学生たちは皆「では、いつ夜が終わり、昼間が始まっているかをどうやって見分けるのですか」とたずねました。ラビは答えました。「それは、あなたが人の顔を見て、その人が自分の兄弟姉妹であることが分かるときです。もし分からなければ、時刻は何時であっても、まだ夜なのです。」

その通りです。わたしたちのラビであるイエスは付け加えます。「あなたが人の顔を見て、そこにインマニエルー—わたしたちと共にいる神—を見て、その人たちの顔の中に神ご自身の顔を見るとき、夜が終わり、夜が明けてきていることが分かります。」

（Sr. Paulina）

主の洗礼 A マタイ3, 13-17

「イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中からあがられた。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のようにご自分の上に降ってくるのを御覧になった」(マタイ3, 16)。

「自分の民を罪から救う」方イエスは、悔い改めを勧告するヨハネのもとに、「罪を告白し、ヨルダン川で彼から洗礼を受けた」多くの群集の中の一人となって来られた。ヨハネはイエスを思いとどませようとして言った。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか」。ヨハネが思いとどませようとしたこと、それは、なんであったのでしょうか。イエスが、悔い改めの必要がある罪ある人類の連帯の中に入ることに他なりません。しかし、神の御子が罪人たちとの連帯に入ることは、すでに神の無償の憐れみの愛によって始められていたことでした。そして、イエスが十字架の上で罪人の一人に数えられつつ、人類を罪の鎖から解き放つまでに深めてゆくことでした。イエスのヨルダン川での洗礼は、御父の人類への愛の計画がすでに始まっており、計画を成就するイエスの従順な、また不退転な決意の表明であり、このイエスとの連帯に招かれる全人類の上への聖霊の注ぎの約束に他なりません。

それで、イエスのヨルダン川での洗礼は、イエス御一人に関ることと言うよりは、全人類とその歴史に関ること、その歩みの転換点、過ぎ越しなのです。罪とその価値観に支配され、翻弄されている人類、平和を願いながら現実には戦争を引き起こしている、連帯、共生を求めながら現実には分断と孤立の中に落ち込んでいる、こんな人類が、罪の拘束から解かれ、本当に望んでいる世界、愛と自由の約束の地を建設してゆく新しい展望とエネルギーの源泉が開かれてくる、この転換点が、イエスの洗礼(バプテスマ)なのです。

わたしたちは、水と御霊による洗礼によって、このイエスとの連帯に入らせていただきました。この連帯は、毎日の生活の苦しみ、喜びを通して御父の御国の建設へと参加し、栄光の神の国、愛と連帯、自由と共生の国へと過ぎ越ししてゆく歩みの中で確認され、完成の日までますます深められてゆきます。始まった新しい年、罪からの解放と新しい世界への過ぎ越し、洗礼の秘儀を一步一步深めてゆく年でありますように。

ルカ 渡辺幹夫

年 間 第 二 主 日 (A)

イエス — 神の小羊・・・ (ヨハネ1-29~39)

クリスマスの飾りは全部外されました。馬小屋も片付けられ、あの星も下ろされました。今私たちは通常の“年間”という典礼の季節を迎えています。この期間、私たちの単調な日々の生活の中で神として生き司牧するイエスに私たちの注意を集中させましょう。私たちが、私たちの間のここ、そこに生きているイエスを探し見出すならばこの通常の“年間”も又素晴らしい時となり得るのです。

どの様にして私たちは群衆の中に存在し真に生きているイエスを探し見出すのでしょうか。洗礼者ヨハネも同じ問いを持っていましたがついには彼はイエスを見出しイエスを認識し、皆に向かって叫びました。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ」。その小羊は多くの人の罪の贖いのために、無言で静かに、しかし、しっかりとした足どりで屠所に向かいました。ご存知のように虎は死ぬ時自分の毛皮だけを残します。そして私たち人間の多くは灰だけを残します。しかしイエスは死んだ時にイエスの御名を残しました。ですからイエスの後に従う者たちは、今日でも神の小羊という御名によって多くの人の罪を取り除いています、又彼等は自分の大切な生命を惜しみなく差し出し、貧困、不当な抑圧、人種差別による偏見等で苦しんでいる人々を解放するために働き続けています。例えば、ある若い裕福な夫婦が二人の子どもを養子にしたいと大きな孤児院にやって来ました。その施設長はにこにこして「最も優秀な子どもたちの中の二人を連れて来ましょう。」と言いました。その時妻はすぐに、しかしやさしく言いました。「とんでもないことです。私たち二人は誰も引取り手のないような二人をいただきたいのです。」これは大変な犠牲です。神の小羊イエスは隣人への愛のためにイエスが行ったのと同じ犠牲をするよう私たちに挑みます。もし心が犠牲を否んでいるならそれは愛が枯れかかっていることを意味します。

イエスが私たちの中に生き、イエスの霊が多くの人々の中で働いているというこの発見は私たちの通常の生活に多くの賞賛、感嘆と驚きをもたらします。私たちが私たちの中で、また間で、働いているイエスを発見すればするほど私たちは生きているイエスがどのように私たちを徹底的に導き、全人類を罪と悪から救っているかを理解し叫びます。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊だ。」

(Sr. Paulina)

年間第三主日A マタイ 4, 12-23

「イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞き、ガリラヤに退かれた」(マタイ 4, 12)。

イエス、危険を避けて隠れるためにガリラヤに退かれたのでしょうか。どうもそうではありません。実は、ガリラヤは、当時、ローマ帝国領に編入されており、宴会の座興のようにして洗礼者ヨハネの首を刎ねてしまう悪しき領主ヘロデの支配に委ねられていた地域です。ですから、もっとも危険な地帯と一つと言わなければならないでしょう。イエスには、積極的な意図があます。「異邦人のガリラヤ、暗闇に住む民は大きな光を見た、死の陰の地に住むものに光が射し込んだ。」イエスは、ローマの支配の下、また、周りの異邦人の風習に汚され、混血が進んだ土地として蔑視されたガリラヤ、当時の宗教的な人たちには無知と蒙昧の暗黒に支配されていると見なされた地域に、慈しみ深い神の生命的交流から切り離された死の陰にいとされた人たちと生活を共にしつつ、光となる、これがイエスの意図なのです。「ヨハネによる福音」の言葉を借用すれば、「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった」(ヨハネ 1, 5) のです。この「理解する」と訳出される言葉は、また、捕らえきる、捕捉する、追いつく、格闘をして打ち負かすとの意味までもあります。暗闇は、自分が支配する人々に自分の発想、価値観を強要し、押し付け、すべてを闇一色に変貌させ、自分の版図を増強しようとする勢力です。それは、自己中心主義、相互不信、絶望の帝国です。イエスは、その強大な闇の帝国の圧力の下で、闇の勢力と戦い、光となって輝いているのです。その歩みは、十字架の死の闇をも過ぎ越し、復活の光の中に進んでゆきます。そして、「真理と生命の国、聖性と恩恵の国、正義と愛と平和の国」(王であるキリストの祭日の序唱)を確立するのです。

「悔い改めよ。天の国は近づいた」。悔い改めとは、闇の中に輝く光、イエスに信頼し、従うことではないでしょうか。暗闇の勢力が押し付ける価値観ではなくイエスの生き方を自分の生命の核にして生きる決意です。「すぐに、イエスに従った。」この従いは、罪に誘惑する文化、価値観、発想の中でも、日々、イエスに従って生きてゆくことを選択です。最初の弟子たちがガリラヤで生きた悔い改めを、わたしたちは、今日の日本の精神風土の中で、生きるのです。支配的な世俗主義の価値観に流されないでイエスを証するように招かれています。

ルカ 渡辺幹夫

十字架の聖ヨハネ こぼれ話(10)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

小魚(2)

十字架の聖ヨハネがグラナダのロス・マルティレスの修道院長であった時、1582年から1588年まで、彼はそこにいました。或る日、彼は修道士たちを散歩に誘い出し、近くの農園へ行きました。そこにはヘニル川やダッロ川が流れていました。どの川がどちらの川であるかは、彼ははっきりと知りませんでした。修道士たちがくつろいでいる間、十字架の聖ヨハネは川岸に着き、ずっと川を見ながら、ずっとほほえんでいます。

どうしたのでしょうか。何が彼に起きたのでしょうか。

そこに居合わせた修道士の一人が、そのことについて私たちに報告してくれるでしょう。

「くだんの神の僕がロス・マルティレス修道院の共同体と共に、彼はその院長でしたが、気分転換に農園に出かけました。そこにはヘニル川やダッロ川が流れていたのですが、彼は川辺に行き、少ししてから修道士たちを呼び、こう言いました。

兄弟たちよ、ここに来て、これらの神の被造物である小さな生き物たちが、どんなに神を賛美しているかをご覧ください。私たちが元気づけるために、知性も理性もないこれらの生き物たちはそうしているのです。ですから、私たちはどれほど神を賛美しなければならないことでしょうか。

そう話しながら、話が途切れてしまいました。それに気づいた修道士たちは皆、彼からそっと離れ、農園を去り、彼を観想の中に残していったのです。

これらの小魚の前で、神々しいまでに「まっすぐに立っている」ヨハネ修士の姿があります。これらの小魚は水の下でまったく幸せそうに行ったり来たりしていました。聖人が学んだ教訓と、主を賛美するように仲間の修道士たちにうながした教えは、とても味わい深いものです。

(続)

スペイン紀行（2008年）No.6

（パストラナ）

スペインの首都、マドリッドの東で 100km のところに小さな村、パストラナがある。ここに、アヴィラの聖テレジアは第六番目の修道院創立を行っている。それはちょうどトレドの修道院が創立されてから二週間目のことだった。ルイ・ゴメス・デ・シルバ公爵（1516～1573）の夫人、エボリ公妃の使者がテレジアを迎えに来たのであった。それは、パストラナに修道院を創立するという公妃との約束があったからであった。しかし、パストラナに女子修道院を 1969 年 6 月 23 日に創立するが、わずか 4 年の間しか、この修道院は機能しなかった。それは、ルイ・ゴメス・デ・シルバ公爵が 1573 年に亡くなったことと、公爵夫人エボリがその後、この修道院に入会することを望んだが、世間の慣習を持ち込んできたので、修道院と公爵夫人との間に亀裂が入り、結局、1974 年 3 月 19 日にセゴビアの修道院を創立した機会に、4 月 6 日、または 7 日にパストラナの修道女たち全員をセゴビアに移したのであった。その後、公爵夫人は、宗教裁判所に訴えることになる。

もう一つ大切な創立が、このパストラナで行われている。それは、男子跣足（改革）修道院の創立である。テレジアは、1567 年にカルメル修道会の時の総長ルベオ神父がスペインを訪れた際、二つの男子の改革修道院創立許可を受け取っている。最初の男子修道院創立は、ドゥルエロである（1568 年 11 月 28 日、公式創立）。その後、ここパストラナに創立する（1569 年 7 月 9 日または 10 日）。その後、男子修道院の創立は、テレジアの手から離れるが、ルイ・ゴメス・デ・シルバ公爵を介して、ルベオ総長からもう一つの大切な改革した男子修道院の創立許可を修士たちに与えるという方法で獲得する。アルカラ・デ・エナレスである（1570 年 11 月 1 日修学院として創立）。この修道院はパストラナとマドリッドの中間地点にあり、当時、トレドの大司教シネロスによって創立された歴史的に重要な大学がアルカラ・デ・エナレスにあった。テレジアは、修士たちも学識を持つことが大切と考えて、この創立には意見を入れているようようである。しかし、このとき、パストラナは修練院とし、アルカラ・デ・エナレスは修学院とする構想ができ、養成修道院の一つにパストラナを割り当てた。もうすでにドゥルエロで始めていた養成を、ここの二つの修道院に移すことになる。その際、ドゥルエロの修練長であった十字架の聖ヨハネは、パストラナ修道院の修練院のために助言しているし、自身は、アルカラ・デ・エナレスの修学院の学生長として 1 年間働くことになる。ここにおいて、男子跣足修道会の基礎が出来たわけである。

（Fr. 松田浩一 OCD）



(当時の男子カルメル修道院から見た小さな村、パストラナの全景)

現在、テレジアが創立した修道院は、フランシスコ会の女子修道会が使用している。また、当時の男子カルメル修道院は、現在、パラドール（宿泊施設）と男子カルメル修道会の遺品とその後に利用したフランシスコ修道会の遺品を展示している博物館がある。

…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

19. 幼いイエスの聖テレーズ (1873-1897) — その1

テレーズ・マルタンは、フランスのアランソンで、大変愛情深く敬虔な家庭に生まれた。4人の姉のうち3人は、リジュー・カルメル会における修道生活においても姉妹となった。テレーズは5歳で母親を亡くしており、非常に感じやすい子どもであった。状況は悪くなる一方のように思われたが、重病の苦しみの中、聖母に助けを願い求め、枕元にあった聖母像が「うっとりするほど美しいほほえみ」を浮かべられるのを見、そのときから健康を回復した。

1888年、15才でカルメル会に入会。正式な修道名は「幼いイエスと尊き面影のテレーズ」であった。テレーズは聖人になりたいと望んでいた。他の聖人たちのように偉大なことはできないと知っていたが、それでも、預言者、司祭、宣教師、使徒になって五大陸を駆けめぐりたかったのである。ある日、彼女は自分の使命が教会の心臓の中で愛となることであることに気がつく。彼女が見出した靈的幼子の小さな道には、何でもないような小さなことをイエスに捧げることが含まれていた。自分自身の弱さそのものをイエスに捧げ、他人に気付かれることも評価されることもない小さな事柄を行う機会を探し、静かに謙遜に奉仕した。テレーズは「神のいつくしみの愛」に身を捧げた。自分が神のあわれみに頼らなければならないこと、神のあわれみは神の正義に勝るものであることを信じていたのである。彼女は神の腕の中にいる子どものように、完全に自分を神に委ねきっていた。結核が重くなってからも、長上への従順によって、自叙伝を書き記した。最も深い信仰の暗夜を体験しながらも、喜びをもって苦しみを受け、1897年に帰天。1925年列聖。1927年、聖フランシスコ・ザビエルと並ぶ宣教の保護者に上げられ、1997年、教会博士の称号を受けた。



幼いイエスの聖テレーズ

—— 祈り ——

おお、私のイエスさま、あなたは私の心の中に非現実的な望みをお置きになることは決してないのですから、私の小ささにもかかわらず、聖性を望むことができるということを、私は知っています。来て、私のすべての能力をあなたのものとしてください。そして、私の行いのすべてが、単なる人間的、個人的なものから、全く神的なものとなるようにしてください。私は、あなたの足跡をたどるために、数え切れない方法でわたしの愛を証ししたいのです。

一日を捧げる祈り

おお私の神よ！ 私は今日一日のすべての行いをイエスの聖心のご意向に合わせ、そのご光栄のためにお捧げいたします。私の心臓の鼓動、私の思い、もっとも単純な仕事も、イエスの聖心の無限のご功德にあわせて聖化することを望みます。そして私の罪をイエスの聖心のいつくしみ深い愛のかまどに投げ入れて償うことを望みます。

おお私の神よ！ 私自身と私の愛する人々のためにお願いいたします。あなたの聖なるみ旨を完全に果たし、過ぎ行くこの世の喜びと悲しみをあなたの愛のために受け入れることができますように。そして、私たちがいつの日か天国で永遠に一つに結ばれることができますように。

宣教のための祈り

おお、この上なく愛深い主イエス、あなたはご自身の尊い御血を代価として世を贖ってくださいました。あわれな人類に、いつくしみの御目をとめてください。人類の多くはいまだに過ちの闇と死の影の中に浸かっているのです。あなたの真理の光のあらゆる輝きで、人類を照らしてください。

おお主よ、あなたの福音の宣教者を増やしてください。彼らの熱意を燃え立たせ、大きな実りをもたらす者とし、あなたの恵みによって彼らの熱意と働きを祝福してください。彼らを通して、すべての不信仰者が、創造主、贖い主であるあなたを知り、あなたに立ち帰りますように。

教会からさまよい出てしまったすべての人々を呼び戻し、教会に抵抗しているすべての人々をあなたの真の教会のふところの中に連れ戻してください。

おお、この上なく愛深い救い主よ、この地上で、あなたの国が喜びのうちに建設されるよう、急いでください。すべての人々をあなたの愛深いみ心に引き寄せてください。彼らが終わることのない天国の幸福のうちに、あなたの贖いの類ない恩恵にあずかることができますように。アーメン。

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(兼平カルメル会訳・編)

ガソリンスタンド

車で外出すると、道路の各所にガソリンスタンドを見受けます。私は運転出来ないためいつも乗せてもらう方なので、さ程の切迫感もなく、給油中は車窓からあちこち眺め回して無意識のうちに乗車疲れを癒しているようなものです。給油後の走行が軽くなったとか、スムーズになったとかも実感していない立場なのですが……しかし車にとっては、ガソリンスタンドの存在は、走行を決定する大切なオアシスでしょう。

そうならば、キリスト者が毎日生きるに大切なものは何？と問われれば、ガソリンスタンドに匹敵するものは、ミサと聖体拝領ということではないでしょうか？誰もが敬虔な気持ちで頂くのですが、その後の一人一人の走行は如何なものでしょうか？

折角聖なる秘跡に与ったとしても、聖堂を出た途端に人間関係で不愉快を感じたり、不機嫌になったりしては、「私」という車がうまく走行しなくなる、まるで石のデコボコ道を、無理に走らせようとしているかのごとく……

1週間経ってからも、ガソリンがスムーズに流れて車がチャンと走っているかどうか、（走るというのは、ご聖体という燃料がチャンと燃えていることなのですが）少なくとも次のガソリン補給までの間に、動かないものに無理に馬力をかけてみたり本心ではない行動には力みが入ったりします。それは伝染病のように本人から相手に伝わり、何となく面白くない雰囲気の流れてしまいます。

そんな人間をよく知っておられる神さまは、キリストとして神性を厳然と保ちながら、人間になられ、特別優待席に座を占められることなく、行脚のうちに、私達人間が人生の中で出くわす（マイナス）面をカットすることなく、イジメや妨害を全部体験されたのでした。そしてそれが集大成されたのが“十字架の道行き”でした。

私たちはミサで聖体拝領をして清められたと思っても、忽ちにして瓦解し、心が荒らされてしまうこともあるのですが、それは当然といえば当然かも知れません。私たちは所詮、水晶体ではないのですから……

そのときに、出来ていない未完成の自分を悔いるよりも、神ご自身がこの痛み易い人性をとられ、罪という言葉さえ使うことの出来ない神性を備えながら、分からない人間のいじめ・冒瀆の攻撃の前に立たれた ということは、どれ程私達に安堵感を与え、ホッとさせて下さることでしょう。このホツという感覚が、愛であり、その愛が私たちを丸ごと包んで下さるのだと思います。ですから出来上がった神、キリスト像を眺めるのではなく、神ご自身が痛みやすい人性をとられ、人間から苦しみを受けられたこと。

しかもそれだけに終わらず、その後で人間の及ばない“復活”という神そのものを証明されたこの事実。人間も死後の復活、ということだけに期待するのではなく、日常の苦難をこの神人キリストを仰ぎ見るときに、その人の心中に「死と復活」を再現させて下さること……

間もなく降誕祭がやってきます。“神が小さな人間になられた”ということは、上記の内容を100%盛り込まれたことではないのでしょうか？

毎日の生活の中で起こる人間関係で、相手はどうであれ、自分自身がイヤと感じたり、そうされたと思ったりした時、強者でありながら弱い人性をとられたこのキリストにクリック出来、それを深く味わうことが出来ることこそ、キリストと共に歩むことではないかと思えます。

そのキリストは、手の平にのる程の小さなパンとなり、私達の口中に入られ、体内に下られます。何という“小ささ”、そして何という“大きな愛”でしょう？

このガソリンの給油が出来るのが“ミサ”なのです。

給油された車が、暴走に近くスピードを出して走りその速さを競うよりも、車輪の回転ごとに、人性をとられた受難のキリストが歩いて下さっているのだ という確信があれば、イエスの最初にして最後のプレゼントである“復活”の喜びを、心から味わえることと思えます。

もうすぐクリスマスが訪れます。クリスマスはセンチメンタルなことではなく、このような深い神の愛と神秘が含まれている、ということが味わえれば、今年のクリスマスは、今までよりももっと深い味わいが出てくることでしょう。

お告げのフランシスコ姉妹会 S r . 熊田 照子

「幻想怪奇」ときいて何をどのように想像されるでしょうか。

私たちは、昨日、今日、明日と営み続けている日常生活があります。それは決して平らかではなく、大きくも小さくも波風が立ち起こり、私達を揺らし動かして二十四時間を刻み続けます。

この日常生活に、もしも何らかの罅があるとして、区分けされた異なる世界があるとして、或る日その罅がはずされて扉が開いたとして、更にはその扉の向こう側へと足を踏み入れたとして、——。

私は、ものごころついた幼い頃から今日まで、本（お話）の世界に淫するを生業としてきたようなところがあります。このような性癖、資質、傾向等々は、深く固有の生育歴にも関与するところですが、しかし又、云ってみれば良し悪しを超えて、天の配剤に負うところなのかもしれません。

お話あまたの中でも、特に「幻想怪奇」と云われる分野には格別の愛着をもっています。

単にファンタジーというだけでなく、敢えて不安、恐怖を土台として生まれるものというのでしょうか。

人は（私は）この世に生を享けたその時から、はっきりしない不安と恐怖を身にまもって生き続けているように思うのです。

人は（私は）日常生活の好調、不調に関わりなく、底知れぬ不確かな不安と恐怖が、この身に深く備わっているのだと何時の日か知るのだと思うのです。

今回「幻想怪奇」をとり上げたのは、先日来時を同じくしてこの手の本を読み、この手の映画を観たことがきっかけとなりました。

本は漫画です。（因みに漫画を読んだのは人生で初体験でした） 或る日もともと愛読するエドガー・アラン・ポーや江戸川乱歩の話を、友人たちとしていた時に、年若い友人から萩尾望都の「ポーの一族」という少女漫画を是非読んでほしいと頼まれたのです。

映画の方は、「パンズ・ラビリンス」という最近のもので、スペイン内戦

を舞台とする重く、苦しく、悲しい話なのですが、そこに怪しく、美しく、切ない異界の話が挿入されるのです。「ポーの一族」は吸血鬼、「パンズラビリンス」は異界の王国の王女様です。

「幻想怪奇」 人間の想像力が生み出すのだと云ってしまえばそれまでなのですが、これ程の比類ない眩惑の美しさをどう言えばいいのでしょうか。

人間に与えられるさまざまな能力の中でも、際立って想像力は、天翔ける自在な雄大さと、人の心の細部に寄り添う繊細さを合わせ持つ素晴らしいものといえましょう。

特に人間の暗黒の域、闇、影への想像は、古今東西の「地獄」に於いてよく現われていると思います。「地獄」とひと言に云っても童話や、お寺にある絵図や、更に芸術とされる絵画、文学、また宗教思想などの学問としての「地獄」とさまざまですが、その様相は私自身の乏しい乏しい範囲においても、圧倒する存在感をもって迫り来て、人間の想像力の限りを尽くした豪華絢爛たる絵巻に魅了されます。けれども、その裏側には人の（私の）深い闇、儂さがあることを否応なく思い知り、私は幻想的な美しい地獄絵巻の中で、人への（私への）悲しさ、いとおしさで胸を詰まらせた覚えがあります。

「幻想怪奇」といわれるものは、人間の自らの闇の深さ、身にまとう不安恐怖からの、慟哭ともいえる切ない祈りの成果のようにも思えるのです。

或る哲学者の次のような言葉が心に浮かびます。

「天国、地獄、天使たち、極楽浄土・・・これ等は人間の想像力の驚嘆すべき奔出です。しかし、想像物は物質ではありません。想像することで人間は物質を超えるわけです。＊人間は物質である＊ とする唯物論の定義をここで超越することを示すのです。」

いのちの言葉 12月

愛は律法を全うするものです。 (ローマ 13・10)

この言葉は、「ローマの信徒への手紙」の中で、「キリスト者として生きるとは兄弟姉妹を愛すること」とパウロが語る、広範な箇所をしめくくるものです。実際、兄弟への愛は、キリスト者が聖霊の促しを心に受けて、神に捧げるよう招かれている、新しい霊的礼拝¹です。

パウロは手紙の中で、兄弟愛についての箇所を要約しながら、私たちは隣人を愛することにより、律法（すなわち、あらゆる神の掟）の中に含まれる神のみ旨を満ち満ちた形で完全に実践できる、と語っています。兄弟姉妹への愛は、神に対する私たちの愛を示すための、最も美しく、最も真実の方法です。

愛は律法を全うするものです。

兄弟への愛を満ち満ちた形で完全に生きるとは、具体的にはどういう意味でしょう。答えは、今月のみ言葉の少し前の節に見出すことができます。パウロが、愛の様々な表現や実りについて記している箇所です。

何よりもまず、真の隣人愛は、いっさい悪を行わず²、私たちが神の掟を例外なくすべて実践できるようにしてくれます³。実際、掟の第一の目的は、私たちが自分自身と兄弟に対するあらゆる形の悪に陥らないようにすることです。

真の愛は、悪を行わないだけでなく、隣人に必要な善のすべてを果たすよう⁴、私たちを促します。

今月のみ言葉は、兄弟姉妹が困っていること、望んでいること、彼らが正当な権利として得るべきことを、私たちが敏感に感じ取り、共感する愛を持つよう招きます。それは、相手を人間として、またキリスト者として、大切にする愛です。イエスが教えてくださったように、純粹で理解に富む愛、分かち合うことのできる愛、すべての人に開かれている愛です。

この愛を実践するためには、私たちが自分の満たされた生活や個人主義から、一步外に出ることが必要です。私たちの心にある自己中心的なすべての傾向（傲慢、貪欲、情欲、功名心、虚栄など）は、真の愛を生きるうえで特に妨げとなるもの⁵ですが、今月のみ言葉は、私たちがこうした傾向を乗り越えるのを助けてくれるでしょう。

愛は律法を全うするものです。

クリスマスを迎える今月、私たちは、いのちの言葉をどのように生きればよいのでしょうか。このみ言葉が思い出させてくれる、隣人を愛するために必要な様々な事柄を心にとめましょう。

第一に、隣人に対して、どんな形の悪も行わないようにしましょう。また自分

¹ ローマ 12・1 参照

² ローマ 13・10 参照

³ ローマ 13・9 参照

⁴ ローマ 12・6-8 参照

⁵ ローマ 12・9-21 参照

の立場や仕事、生活環境に関する神の掟に、絶えず心を向けましょう。キリスト教的愛を実践するための第一の条件は、神の掟に決して逆らわないようにすることです。

また、すべての掟が持つ「魂」の部分、その存在理由と目的に、注意しましょう。掟の一つひとつは、私たちが兄弟に対して、より一層目覚めた愛、より繊細で敬意に満ちた愛、より具体的な愛を持つよう導くものです。

この愛を生きる時、私たちの中には、自分に執着せず、エゴを乗り越える姿勢が育っていくでしょう。これはキリスト教的愛を生きた実りです。

こうして、私たちは「満ち満ちた形で」神のみ旨を果たし、最も神に喜んでいただける形で、私たちの愛を神に示すことができるでしょう。

愛は律法を全うするものです。

このみ言葉を、ある国の労働省で働く一人の弁護士も経験し、彼はこう語ってくれました。「私は、ある会社経営者に、現行の法律通りに労働者に給料が支給されなかった事実を訴えました。懸命に調査をすすめた結果、二週間後に法律違反を証明する書類を発見しました。私はイエスに『あなたの言葉通りに真理に忠実でありながらも、あなたの愛の道具となれますように』と、力を願いました。

経営者は証拠書類を前にして、『ある種の法律は正当とは思えない』と自己弁護を始めたので、私は、他人の正しくない行動により、自分の過ちが正当化されるものではないことを伝えました。彼と話をしながら気づいたのは、彼自身は私と同じく正義と平等を求める人物でありながらも、周囲の状況に流されて今回の事態が生じた、ということでした。

最後に彼は私に言いました。『あなたは、私を侮辱して屈服させることもおで

きになったでしょうが、そうはなさいませんでした。だからこそ私は、自分の行いを正さねばならないと感じます』と。彼はその後すぐ用事で出かけねばならず、法律違反を認める文書を準備する時間がありませんでした。すると彼は白紙にサインをして、私に手渡しました。私が作ることになる文書を見ずに、信頼の上で署名を残した彼の態度から、やりなおす決意が本物であることがわかりました。」

キアラ・ルービック
(2007.12)

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

僕はこの前急に部活中に具合が悪くなってその日は早めに家に帰りました。具合が悪かったのは寝不足が原因だと思ったので、その日は早く寝ようと思いました。寝る準備をしているときに大量の洗われていない茶碗を見つけました。その日はいつものようにお母さんが後で洗ってくれるだろうなと思いました。少したってから見てみると、まだ全然手が付けられていませんでした。お母さんのところに行ってみると、もう寝てしまっていました。お母さんは仕事も家事もしていて、僕よりはるかに大変だろうなと思ったし、これは愛するチャンスだと思ったので、茶碗を洗うことにしました。茶碗を洗っているとお父さんも手伝ってくれて、二人で洗いました。茶碗を洗い終わったあとはやはりきつかったのですが、心に喜びを感じました。(長崎市・S)

連絡先

フォコラーレ : 03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail: tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ :

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>



まだ見えぬ目をみひらきてみどりごが人境の四
囲見つめてゐたり

現世の波に真向かふしばらくを序奏のごとく
眠るみどりご

をさなごは早や原点を出でゆくと必死に這へり
きのふよりけふ

故クララ、密本 延枝さまの歌集「オルゴール」より



カルメル会の企画案内



内案画金の会々々々



カルメル靈性センター主催

2008年度

カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：使徒パウロの靈性に学ぶ

—「聖パウロ年」を迎えるにあたって—

使徒パウロは、現在のトルコにあるタルソスで、紀元7年から10年の間に生まれたとされています。キリストの弟子たちを迫害していた彼は、ダマスコに向かう途中、復活したキリストと出会って回心し、異邦人の使徒として活躍します。60年代半ば、ローマで殉教しました。昨年(2007)の6月28日、教皇ベネディクト16世は、2008年の6月28日から一年間を聖パウロの特別聖年とすると発表し、現代の教会がこの使徒の宣教の熱意と犠牲の精神にならうよう呼びかけました。今年はパウロの靈性を、皆さまと共に学んで行きたいと思えます。

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分）

世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会（TEL 03-3704-2171）

日時：下記の各日曜日 午後2時半開始 入場無料（講話の後、主日のミサ）

- 2月10日（日） 大瀬高司（カルメル修道会司祭）
「カルメルとパウロ —史的歩みの中で」
- 2月17日（日） 渡辺幹夫（カルメル修道会司祭）
「イエスのテレジアとパウロ」
- 2月24日（日） 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）
「幼きイエスのテレジアとパウロ」
- 3月2日（日） 澤田豊成（聖パウロ修道会司祭）
「パウロ：キリストに捕らえられた使徒
—キリストがわたしの内に生きておられる（ガラ2:20）」
- 3月31日（土） 九里 彰（カルメル修道会司祭）
「十字架のヨハネとパウロ」

靈性センター事務局 Tel(03)3704-2171 Fax(03)3704-1764

上野毛霊性センター '08年1月~'09年3月

ご注意! 聖テレジア修道院(黙想)のEメールは故障中ですので、
お申し込みは電話・FAX・ハガキでお願いいたします。

A 黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 一泊聖書深読(毎回土曜日 夕食~日曜日16時)

2月23日~24日 九里彰師

5月24日~25日 カルメル会士

7月26日~27日 カルメル会士

11月29日~30日 カルメル会士

09/ 1月24日~25日 カルメル会士

日帰り聖書深読(毎回土曜日午前10時~午後4時)

1月12日 九里彰師

3月15日 九里彰師

2. 奉獻生活者のための黙想会

A 8月5日(火) 夕食~ 8月14日(木) 朝 カルメル会士

B 8月18日(月) 夕食~ 8月27日(水) 朝 カルメル会士

C 11月8日(土) 夕食~11月17日(月) 朝 カルメル会士

D 12月26日(金) 夕食~09/1月4日(日) 朝 カルメル会士

3. 木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日10時~16時)

1月31日 主よ、助けてください 福田正範師

2月28日 見えない者は、見えるようになる 九里彰師

3月27日 あなた方に平和があるように 福田正範師

4月3日 未定 カルメル会士

6月5日 未定 カルメル会士

9月4日 未定 カルメル会士

11月6日 未定 カルメル会士

09/ 1月8日 未定 カルメル会士

3月12日 未定 カルメル会士

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎週金曜日 10時～16時)

2月 8日	御復活のラウレンシオ	福田正範師
5月 9日	未定	カルメル会士
7月 4日	未定	カルメル会士
10月10日	未定	カルメル会士
12月12日	未定	カルメル会士
09/ 2月13日	未定	カルメル会士

5. 一般黙想会 (毎回土曜日 夕食～日曜日16時) カルメル会士

4月 5日～ 6日
 6月21日～22日
 10月25日～26日
 09/ 2月 7日～ 8日

6. 青年黙想会 (男女) カルメル会士 神学生

4月25日 (金) ～27日 (日) 17時受付
 10月 4日 (土) ～ 5日 (日) 15時受付

7. 召命黙想会 (男女) カルメル会士

6月28日 (土) ～29日 (日) ・ ・ 15時受付
 11月22日 (土) 20時～24日 (月) ・ ・ (22日は夕食を済ませてご参加ください)

8. 大祭日のミサに与かるために

【聖週間を祈る】 ・ ・ チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。

3月20日 (木) ～23日 (日) 《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 ・ ・ チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時

12月24日 (水) ～25日 (木) 《講話なし、夕食なし》

9. 特別黙想会 “私は神をみたい” シリーズ 伊従信子NDV

5月16日 (金) 20時～18日 (日) 16時 (16日は夕食を済ませてご参加ください)

「私は神をみたい」 ・ ・ ・ マリア

10月11日 (土) 20時～13日 (月) 16時 (11日は夕食を済ませてご参加ください)

「私は神をみたい」 ・ ・ ・ イエスの渇き

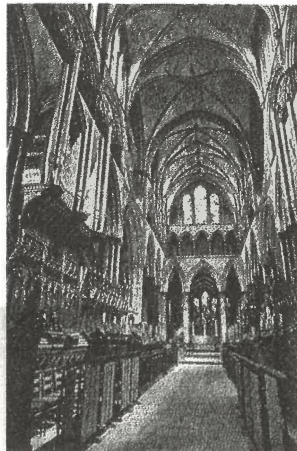
東京

10. 待降節黙想会 カルメル会士

12月5日(金) 20時~7日(日) 16時 (5日は夕食を済ませてご参加ください)

11. 四旬節黙想会 カルメル会士

09/ 3月6日(金) 20時~8日(日) 16時 (5日は夕食を済ませてご参加ください)



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
なるべくFAX・はがき・~~メール~~でお願いします。(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメールは工事のため、しばらくは 電話、ハガキ、FAXでお願いします。

B カルメル靈性研究クラス (九里 彰神父)

* アヴィラの聖テレジア『創立史』

1月9日 第29～第30章

2月6日 第31章、エピローグ

* アヴィラの聖テレジア『靈魂の城』

3月12日 序、第一の住居 (第一章と第二章)

毎月一回水曜日夜7:15～8:45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。随時参加もOKです。上野毛教会信徒会館2階26号室。無料。テキストは、東京女子カルメル会訳 (ドンボスコ社) を使用します。

C 念祷の集い (九里 彰神父)

1月18日 「キリストの平和」

2月22日 「ペトロの幸い」

3月28日 「空の墓」

毎月一回金曜夜7:15分より。上野毛聖テレジア修道院 (黙想) 小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

7:15 聖歌 始めの祈り

み言葉と念祷

終わりの祈り 聖歌

8:15 分かち合い

8:45 片づけ 解散

D 東西靈性研究クラス (九里 彰神父)

広く東西の靈性について学ぶクラスです。

* 毎月第二金曜日 (午後7:15～8:45) 信徒会館26号室。無料。

* 第8回 1月11日 『老子』第32章～第41章

講談社学術文庫 (金谷治訳注) を使用します。

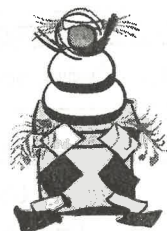
* レポーター: 平田ひろみ

* 各回とも、参加者に順番でレポーターを勤めて頂きます。その後、分かち合い。

* 問い合わせ: 加藤和彦 TEL (03) 3418-6816

E-mail tokyo@carmel-monastery.jp

* 第9回 2月8日 『老子』第42章～第51章



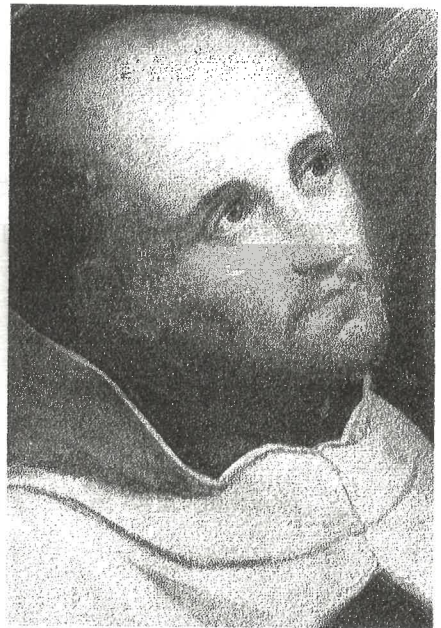
C.Y.C.(カルメル・ユース・クラブ)

キリスト者青年の集い

「十字架の聖ヨハネの生涯」

十字架の聖ヨハネ(1542~1591)は、スペインでアヴィラの聖テレジアによって始まった改革カルメル会(跣足カルメル会)の靈的な父です。どのような聖人であったのか、彼の生涯をふりかえりながら、共に見てゆきましょう。

日 時 : 1月27日(日) 13:30~16:30
対 象 : 18歳以上 35歳までの 青年男女
スタッフ : カルメル会士
場 所 : 上野毛教会 信徒会館 26号室
東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分



プログラム

13:20~	受付
13:30~14:10	始めの祈り・講話
14:10~14:50	分かち合い
15:00~15:50	御ミサ … 教会聖堂
16:00~16:30	分かち合い(茶話会) 終わりの祈り
16:30	解散

その他

☆ 事前の申込みは不要ですので、お気軽にお越し下さい。お問い合わせに関しましては FAX または E-mail に、住所、氏名、年齢をお書きいただき、下記までお送り下さい。

☆ 今後のC.Y.C.の日程は、次の通りです。2月17日(日)、3月16日(日)、4月20日(日)。

※C.Y.C.のご案内は、カルメル靈性センターのホームページからご覧いただけます。
<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/> (各種黙想会・企画のご案内もございます。)

カルメル修道会 カルメル・ユース・クラブ (C.Y.C.) 係 (神学生: 古川)

[Fax] 03-3704-1764 [E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp

(〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Tel 03-3704-2171)

新企画！

聖書深読黙想会（一日）のお知らせ

毎回好評の一泊聖書深読黙想会の姉妹編。



現在、一泊聖書深読黙想会が行われていますが、多くの方の要望により、どなたでも参加しやすい日帰り聖書深読黙想会を企画しました。聖書を深く読み解き、分かち合いによって、今までとは違う聖書の世界が見えてくるかもしれません。

聖書に関心がある方はどなたでもご参加下さい。

日時：11月17日（土）九里彰師 了

08年 1月12日（土）九里彰師

3月15日（土）九里彰師

毎回 10：00～16：00（昼食付）参加費用¥3,500

*持参するもの

聖書（準備されておりますが、ご自分の聖書のほうが使いやすいと思われる方はご持参下さい）筆記用具。

*お申込：

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル修道会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Tel 03-5706-7355 Fax 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

'08年1月～12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

* * 宇治聖テレジア修道院 (黙想) * *

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

1月12日 (土)～13日 (日)	渡辺幹夫神父
3月 8日 (土)～ 9日 (日)	新井延和神父
5月17日 (土)～18日 (日)	渡辺幹夫神父
7月 5日 (土)～ 6日 (日)	新井延和神父
9月20日 (土)～21日 (日)	渡辺幹夫神父
11月 8日 (土)～ 9日 (日)	中川博道神父

1日 (午前10時から午後4時)

2月 2日 (土)	新井延和神父
4月12日 (土)	渡辺幹夫神父
6月21日 (土)	新井延和神父
10月 4日 (土)	畠 基幸神父
12月13日 (土)	新井延和神父

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

1月16日 新しくなる	渡辺幹夫神父
2月20日 聖書の祈り	新井延和神父
3月12日 主の受難	カルメロ神父
4月 2日 キリストの復活	新井延和神父
5月28日 聖霊の賜物	長岡幸一神父
6月11日 ご聖体	ベルナルド神父
7月23日 カルメルの祈り	新井延和神父
9月10日 神との親しさ	中川博道神父
10月 8日 アヴィラの聖テレジア	sr.パウリーナ
11月19日 三位一体のエリザベット	ベルナルド神父
12月17日 十字架の聖ヨハネ	渡辺幹夫神父

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

2月9日 (土)～2月10日 (日) カルメロ神父

4.待降節黙想（午後5時～午後4時）

12月6日（土）～7日（日）

新井延和神父

5.聖テレーズの黙想（午後5時～午後4時）

9月30日（火）～10月1日（水）

伊従信子（NDV）

6.一般黙想（修道者も可能）午後5時～午前9時

4月29日（火）～5月6日（火）

渡辺幹夫神父

7.奉獻生活者のための黙想（午後5時～午前9時）

8月 2日（土）～11日（月）

渡辺幹夫神父

8月18日（月）～27日（水）

中川博道神父

10月18日（土）～27日（月）

渡辺幹夫神父

12月27日（土）～1月5日（月）

新井延和神父

8.青年のための黙想会・男女（午前10時～午後5時）

11月2日（日）

カルメル宣教修道女会、渡辺幹夫神父

.....

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願ひいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL 0774-32-7016
FAX 0774-32-7457

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2008）

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「祈りを生きる～主よ、私たちに祈ることを教えてください～」としました。

このテーマを通して、魂の呼吸であるといわれる祈りを、日々の神様との出会いの中で、主のみ前に自分を置き、静かに主のみ声に耳を傾け、主と語り、主を生きる喜び、恵み、愛を思い巡らしながら、神様と交わりをより深めていく事ができるならと願っています。

第1回	1月14日(月)*祝	日常の祈りの心、形、方法	中川博道神父(カルメル会本部)
第2回	2月16日(土)	イエスは祈られた	ベルナルド神父(宇治修道院)
第3回	3月8日(土)	苦しみの時の祈り	新井延和神父(宇治修道院)
第4回	4月12日(土)	賛美と感謝の祈り～ミサ～	今泉健神父(上野毛修道院)
第5回	5月24日(土)	ロザリオの祈り	渡辺幹夫神父(宇治修道院)
第6回	6月14日(土)	主の祈り	新井延和神父(宇治修道院)
第7回	7月21日(月)*祝	聖エリアの祈り	中川博道神父(カルメル会本部)
第8回	9月27日(土)	幼いイエスの聖テレジアと祈り	未定
第9回	10月13日(月)*祝	アヴィラの聖テレジアと祈り	Srノパウリーナ(宣教カルメル修道女会)
第10回	11月24日(月)*祝	十字架の聖ヨハネと祈り	九里彰神父(上野毛修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接

* 駐車場は利用できません。

* 費用 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約20名

* プログラム
 10:00～ 祈り
 10:40～ 講話【1】
 12:00～12:45 昼食
 12:50～ 赦しの秘跡または短い面接
 13:30～ 講話【2】
 14:45～ ミサ
 15:30～ 茶話会
 16:00～ 終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター一日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

NEW企画!

聖書深読会ご案内 2008年度

日曜日の福音を、読み、味わい、分かち合い、解読で学んで
福音を心に刻みます。どなたでも、自由にご参加ください。

1. 5月31日（土） 畠 基幸神父
2. 7月19日（土） 新井延和神父
3. 9月13日（土） 新井延和神父

場所；唐崎黙想の家（ノートルダム教育修道女会）

費用；1,500円（昼食代含む）

時間；午前10：00～午後4：00

住所；〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

TEL 077-579-7560

交通；JR京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車

琵琶湖の方へ徒歩 約13分

申し込み・問い合わせ；TEL 075-781-6438

FAX 075-781-8935 Sr.福島まで

各回、お申し込みは前日までに
電話、ファックス、または葉書にてお願いします。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

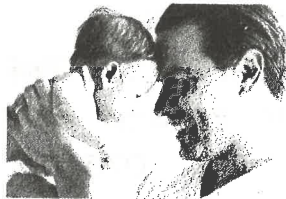
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」No. 326 (2007年秋号)「今日の靈性」

- * 聖霊の光のもとに 一教父たちの教えと生き方(7) …高橋正行
- * 【靈的講話】存在の根底に立ち返る …中川 博道
- * 十字架の聖ヨハネ講話 (8) …フェデリコ・ルイス
アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(6) …九里 彰
- 愛で生きる(6) …ペトロ・アロイジオ
- エリザベットの「魂のこだま」、ギット(3) …伊従信子
- カルメルの響り(10) 一結実 OCD女子修道院創立とその後 …大瀬高司
- 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(18) …伊従信子
- * すべてを受け入れる …森 みさ
- 愛の断章(5) …奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 327 (2007年冬号)「今日の靈性」

- * 聖霊の光のもとに 一教父たちの教えと生き方(8) …高橋正行
- * 【靈的講話】存在の根底に立ち返る(続) …中川博道
- * 十字架の聖ヨハネ講話 (9) …フェデリコ・ルイス
アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(7) …九里 彰
- 愛で生きる(7) …ペトロ・アロイジオ
- エリザベットの「魂のこだま」、ギット(4) 一妹への最後のことば …伊従信子
- カルメルの響り(11) 花咲くぶどうの樹 ～在俗者会と男子会員～ …大瀬高司
- 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(19)
一日々の生活で信仰を生きる …伊従信子
- * リジューの聖テレーズとペトロ岐部
一本質を見定めることの大切さ …谷口正子
- 愛の断章(6) …奥村一郎

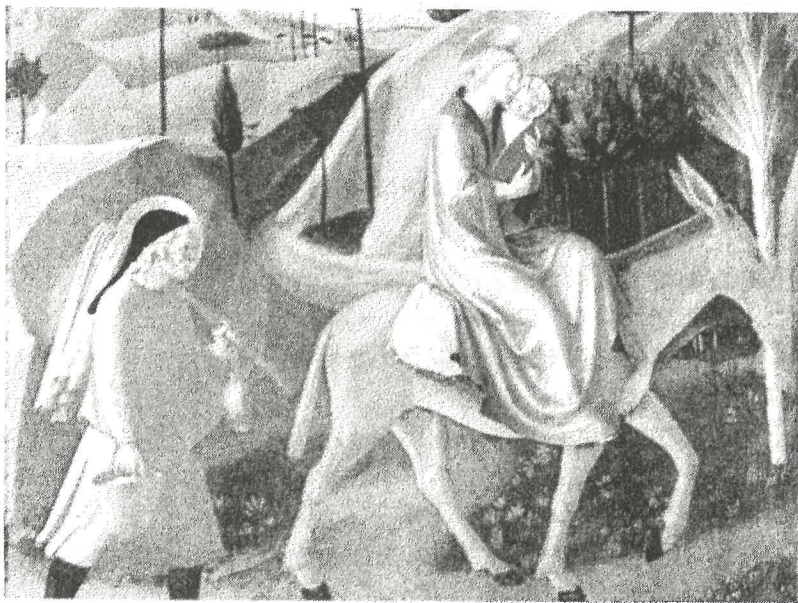
※ 雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会

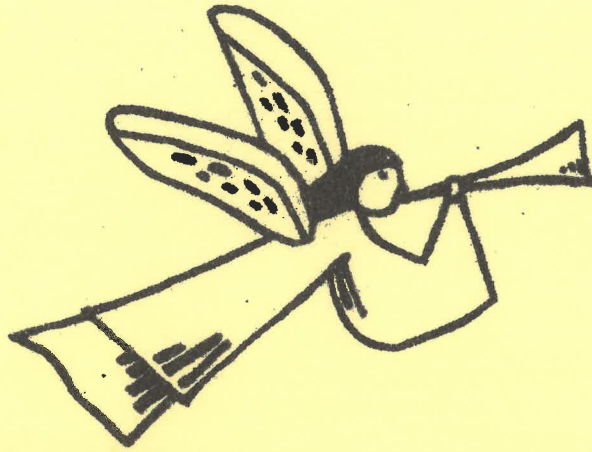
(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL(03)5706-8356)

待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』(ドン・ボスコ社)



諸所の企画案内



CWC 企画

心のいほり

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム教育修道女会

聖ドミニコ女子修道会

コングレガシオン・ド・ノートルダム

ノートルダム・ド・ヴィ

諸所の企画案内

【CWC 講話会】

現在は、「聖書深読入門」を行なっています。

講師：九里 彰神父（カルメル会）

日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）

場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時

対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

連絡先：神藤（CWCスタッフ）TEL（03）3642-5629

2008年

1月15日（火）

2月12日（火）

3月11日（火）



方法

1. まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。
2. その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。
3. 「素読」で受け取ったものを、一節ごと皆で分かち合う「合読」。
他者の発言に対し、一切批評はしない。自分のことのみ発言する。
(無理に発言する必要なし。何も発言しなくてもOK。)
4. 「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解説」。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせして下さい。電話では取次いでおりません。
申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」
藤原神父 FAX 072・802・5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★ 2008年度 ★

P1	08・01・11 (金)	2時から	01・17 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K1	08・01・27 (日)	2時から	02・02 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
Y1	08・02・10 (日)	2時から	02・16 (土)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
P2	08・03・10 (月)	2時から	03・16 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K2	08・04・13 (日)	2時から	04・19 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
M1	08・05・25 (日)	2時から	05・31 (土)	2時まで	盛岡・白百合
K3	08・06・01 (日)	2時から	06・07 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
N1	08・06・24 (土)	2時から	06・30 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
Y2	08・07・22 (火)	2時から	07・28 (月)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
H1	08・08・18 (月)	2時から	08・24 (日)	2時まで	姫路仁豊野・マリア
P3	08・09・13 (土)	2時から	09・19 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K4	08・09・28 (日)	2時から	10・04 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
Y3	08・10・07 (火)	2時から	10・13 (月)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
N2	08・11・04 (火)	2時から	11・10 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
P4	08・11・30 (日)	2時から	12・06 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
K5	08・12・09 (火)	2時から	12・15 (月)	2時まで	東京・小金井・聖霊会

ミニ内観のご案内

★滋賀・唐崎・ノートルダム祈りの家で

二泊内観。参加費は2万円

- 2008年3月25日(火)午後1時から
27日(木)午後4時まで
- 2008年9月23日(火)午後1時から
25日(木)午後4時まで

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて

一泊内観。参加費は1万円

- 2008年4月26日(土)午後2時から
27日(日)午後4時まで

★内観経験者の集い(関東)

- 2008年4月20日(日)・10月5日(日)
- 聖母訪問会・三浦修道院にて
- 連絡：高階 dhk-ichiro@y7.dion.ne.jp

★ブラリと訪れ、静かな時間・内観したい人に

- 長野県下伊那郡大鹿村 小倉家
- 電話0265・39・2778

●問い合わせ

- 唐崎修道院シスター桂川・安井
電話 077-579-7580
ファックス 077-579-3804
- 内観瞑想センター藤原
ファックス 072-802-5026



リーゼンフーバー 講座・集い 案内

2007～2008年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。
- 坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。祝日を除く。
3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心 ● 4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時 了
6月22日(金)20時30分～24日(日)13時 了 } 秋川神冥窟。1泊2400円程度。
8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分 了
10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時 了
2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分 上石神井。5600円程度。
● 5月12日(土)13時～13日(日)16時 了 } 宝塚市
8月1日(水)17時30分～7日(火)13時 了
- ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
- 黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し8月14日は休み。8月28日は上智大学内クルトゥルハイム聖堂。
12月25日(火)はクリスマスの黙想(予定)。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
~~●通う雪操 8月18日(土)～26日(日) 18時～21時 上智大学内クルトゥルハイム聖堂~~
- 祈りの集い ●下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月14日、5月26日、6月30日、7月14日、8月18日、9月8日、10月13日、11月17日、12月8日、
2008年1月12日、2月2日、3月15日
●ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分 上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂
- 黙想会 5月19日(土)10時～20日(日)15時、9月22日(土)10時～24日(月)14時、12月1日(土)10時～2日(日)15時、
2008年3月8日(土)10時～9日(日)15時、上石神井。1泊5600円程度。
- アガベ会 下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内S.J.ハウス第5会議室
~~4月21日(土)、6月16日(土)、10月21日(日)、2008年1月20日(日)~~
- クリスマス会 12月15日(土)17時 聖イグナチオ教会信徒会館ヨセフホール(予定)。要申し込み。
クリスマス会のミサ 12月23日(日)14時 上智大学内クルトゥルハイム聖堂
- 問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html
<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座 2007～2008年

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四ツ谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各 回 の テ ー マ

- 12/1-2 ●黙想会
- 12/7 恵みとゆるしー神の憐れみを受ける
- 12/14 愛の心ーキリスト教の本質
- 12/15 クリスマスのミサとパーティ (教会信徒会館ヨセフホール) (予定)
- 12/21 隣人愛ー他人のうちにイエスに出会う
- 12/23 ミサ (14時、上智大学内 Kulturtulハイム2階)
- 1/11 希望を持つ勇氣ー未来に向かって歩む
- 1/18 霊の動きー福音による生き方
- 1/25 聖書と教会ー信仰の基盤になる言葉
- 2/1 秘跡と教会生活ー毎日を養う信仰
- 2/8 神の言葉ー神との日常的な対話と黙想の仕方
- 2/15 結婚と独身ー愛の道
- 2/22 仕事という召し出しー教会と社会に寄与して働く
- 2/29 人間の苦悩ー悪とは何のためか
- 3/7 死ーその実現と克服
- 3/8-9 ●黙想会
- 3/14 人生の完成ー神の内に生きる
- 3/21 ○休み
- 3/23 復活祭。感謝のミサ (14時、上智大学内 Kulturtulハイム2階)
- 3/28 聖母マリアー信じる者の原型

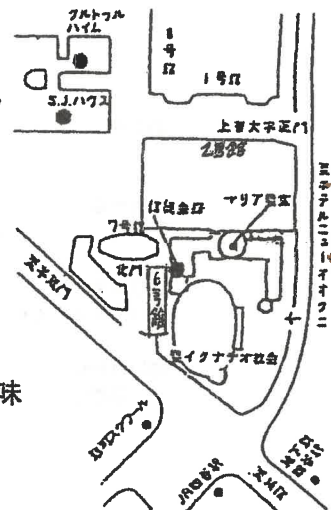


リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座 2007～2008年

日時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四ツ谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

- 12/1-2 ●黙想会
- 12/4 家庭と独身生活——与えられた道の発見と深化
- 12/15 クリスマスのミサとパーティ
(17時、教会信徒会館ヨセフホール) (予定)
- 12/18 仕事と余暇——能力の活性化と人への奉仕
- 12/23 ミサ (14時、上智大学内 Kulturtulハイム2階)
- 1/15 困難と苦しみ——その受け入れと克服
- 1/29 [信仰生活] 教会生活への参加——救いのしるしと典礼の意味
- 2/5 秘跡の恵み——ミサと告解
- 2/19 祈りの本質と諸形態——神との個人的な関わり
- 3/4 深遠な神秘への接近——黙想の意味と仕方
- 3/8-9 ●黙想会
- 3/18 世界に開かれた靈性——活動における観想
- 3/23 復活祭。感謝のミサ (14時、上智大学内 Kulturtulハイム2階)



坐禅会



月曜日 : 17時20分～20時10分

木曜日 : 18時～20時30分

(祝日を除く)

場 所 : 上智大学内クルトウルハイム 1階正面左の部屋

3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。



接 心 2007年度

関東

4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時了

6月22日(金)20時30分～24日(日)13時了

8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分了

10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時了

秋川神冥窟

1泊2400円程度

2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分上石神井、5600円

指導と問い合わせ先:

クラウド・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス

電話 03-3238-5124(直通)5111(伝言)、FAX 03-3238-5056



「会社帰りの 黙 想」^{メディテーション} —あわただしい毎日に平安のオアシスを

月2回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれます。

リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまな仕方が紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書のことばをもとにし、自己を探り静かに考え、祈ることが出来ます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。

信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから開放され、夕べのひとつときに心を深めたい方、どなたも歓迎です。随時参加、遅刻可、参加は無料です。初めて黙想なさる方も、お気軽にいらしてください。

日 時 毎月第2・第4火曜日 18:45～20:00

※12月25日(火)クリスマス・メディテーション(予定)

場 所 聖イグナチオ教会マリア聖堂(中聖堂)

TEL 03-3263-4584

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel : 077-579-7580

Fax : 077-579-3804

E-メール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。

琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8 日間の個人指導による黙想

① 2007 年 12 月 27 日 (木) ~ 2008 年 1 月 4 日 (金)

② 2008 年 7 月 22 日 (火) ~ 7 月 30 日 (水)

③ 8 月 16 日 (土) ~ 8 月 24 日 (日)

④ 9 月 1 日 (月) ~ 9 月 9 日 (火)

⑤ 10 月 18 日 (土) ~ 10 月 26 日 (日)

初日は、17 時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

B. 祈りの体験：週末 3 日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

⑥ 2008 年 1 月 18 日 (金) ~ 1 月 20 日 (日)

⑦ 2 月 22 日 (金) ~ 2 月 24 日 (日)

⑧ 4 月 11 日 (金) ~ 4 月 13 日 (日)

⑨ 5 月 9 日 (金) ~ 5 月 11 日 (日)

⑩ 6 月 27 日 (金) ~ 6 月 29 日 (日)

⑪ 9 月 5 日 (金) ~ 9 月 7 日 (日)

⑫ 10 月 3 日 (金) ~ 10 月 5 日 (日)

⑬ 10 月 10 日 (金) ~ 10 月 12 日 (日)

⑭ 10 月 24 日 (金) ~ 10 月 26 日 (日)

⑮ 11 月 7 日 (金) ~ 11 月 9 日 (日)

他の黙想会が行われている場合があります。

C. 自己発見から神へ I 【講話と実習】

⑯ 2008年2月22日(金)～2月29日(金)

⑰ 10月1日(水)～10月8日(水)

この期間、個人黙想をなさりたい方は、ご相談ください。

D. 上記の日程以外の日、個人で黙想をなさりたい方は、
問い合わせてください。

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： トニー・プロトニヤック (リノール宣教師) 安井 昌子 (ノートルダム教育修道女)
菊池 陽子 (ノートルダム教育修道女) 松本 佳子 (ノートルダム教育修道女)

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 但し、それ以前に
満室になった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎ その他： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。
問い合わせは、電話 または、Eメールを ご利用ください。

青年の集い

幼子イエスさまの御降誕の喜びを間近に感じる季節となりました。この静かな喜びが私たちの心の深みへと、しみとおりますように。このたび、フランシスコ会の福田誠司神父様をお迎えして「青年の集い」の時を計画いたしました。「いのち、ってなんだろう?」「生きるってどういうこと?」…忙しい日々の中で、ふと足をとめ、ご自分を見つめ直す「時」をご一緒につくってみませんか?ご参加をお待ちしております。

記



日時 2008年2月11日(月) 午前10時~午後3時30分

場所 聖ドミニコ女子修道会 玉川修道院
(世田谷区玉川4-14-11)

テーマ いのち —生命の尊厳とカトリック教会—

講師 福田 誠司 師 (フランシスコ会)

対象 青年男女

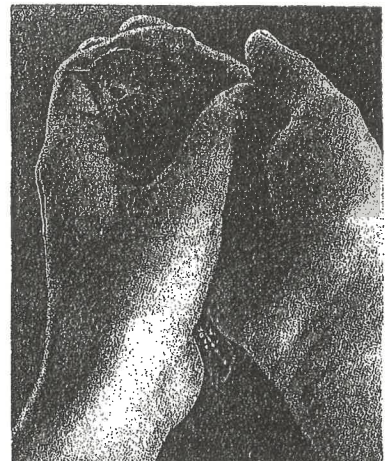
申し込み締め切り 2008年2月8日(金)

申込先 聖ドミニコ女子修道会玉川修道院
シスター安本、柳原

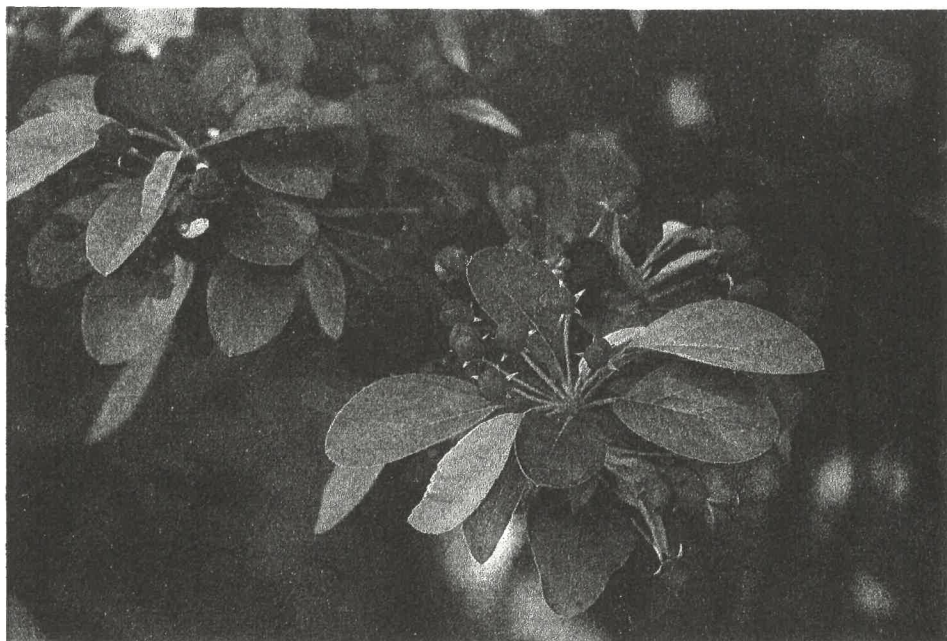
TEL 03-3709-5137

E-Mail domitama@utopia.ocn.ne.jp

いのちを愛される主よ すべてはあなたのもの。
あなたはすべてを いとおしまれる。
知恵の書



祈りの集いのご案内



1 日黙想会

—イエスの息づかい—

講 話 : 具 正 護 師 (イ エ ズ ス 会)
日 時 : 2008 年 1 月 13 日 (日) 10:00 ~ 4:00
対 象 : 20 代 30 代 の 未 婚 女 性
参 加 費 : 1000 円 申 込 込 み : 1 月 12 日 (土) ま で

問い合わせ・申し込み

〒182-0034 東京都調布市下石原3-55-1

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道院(担当: Sr.山本・Sr.峰・Sr.池田)

京王線調布駅下車徒歩13分(鶴川街道沿いマルガリタ幼稚園隣)

TEL: 0424-82-2012 FAX: 0424-82-2163

E-mail: prayer3551cnd@hotmail.com

URL: www.cnd-m.com

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

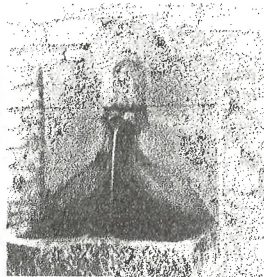
カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2008年1月12日(土)

講話 伊従信子・片山はるひ

午後2時より 講話・祈り・分かち合い
午後5時半 主日のミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。



奥村一郎 Okumura Ichiro ●カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。

深い信仰と豊かな霊性、 そして透徹した知性が織り成す 奥村神学の全貌。

祈りと思案の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となつてなお続く禅との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の霊性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の霊性」は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。——著者による「刊行にあたって」より

奥村一郎選集

Okumura Ichiro

全9巻

2007年3月刊行開始

オリエンツ宗教研究所

定価各2,100円

(本体2,000円)

四六判・上製・平均240頁

奥村一郎選集 全9巻の構成

- 第1巻 慈悲と隣人愛
(解説)西村恵信
- 第2巻 多文化に生きる宗教
(解説)ヤン・ヴァン・ルブラフト
- 第3巻 日本の神学を求めて
(解説)小野寺功
- 第4巻 日本語とキリスト教
(解説)阿部仲麻呂
- 第5巻 現代人と宗教
(解説)鶴岡賀雄
- 第6巻 永遠のいのち
(解説)八木誠一
- 第7巻 カルメルの霊性
(解説)高園泰子
- 第8巻 神に向かう〈祈り〉
(解説)高橋重幸
- 第9巻 奉獻の道
(解説)宮本久雄

3

日本の神学を求めて



奥村一郎選集

8月刊行

第三巻 日本の神学を求めて

《日本の神学・・根源への問い／相互愛／
「信ずる」と「愛する」／新しい掟》

解説；小野寺 功

9月刊行

第六巻 永遠の命 解説；八木誠一

《嬰兒復帰／人間の栄光と悲惨／死を見つめる／
十字架の秘義／人間と世界と神》

12月刊行 最新刊

第四巻 日本語とキリスト教 解説；阿部仲麻呂

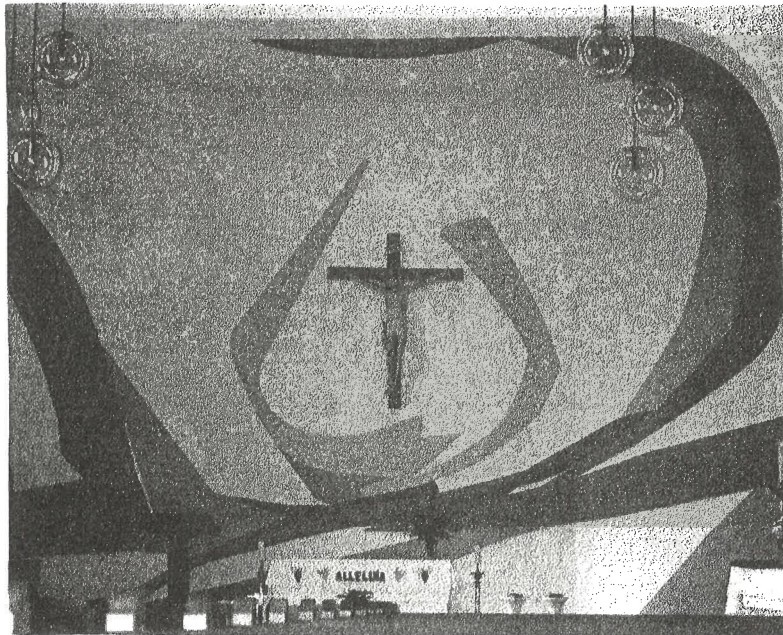
《日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と
翻訳》

新刊紹介

谷口正子著

仏教とキリスト教の中の『人間』

『歎異抄』・宮澤賢治・石牟礼道子ほか



(ポール藤野の聖堂壁画)

- * 宗教と詩と世界経験が「人間」へと収斂していった。
現代世界における人類破壊の流れに抗しようとする著者谷口正子さんの切なる祈りがこめられている。
(京都大学名誉教授) 上田閑照
- * 仏教かキリスト教かの短絡的な二者択一でない普遍的な地平
を「人間」という事実から探ろうとする、真摯な魂の軌跡。第二ヴァチカン公会議の精神とも符合する。
(跣足カルメル会上野毛修道院院長) 九里 彰

国文社 定価 (本体 2400 円 + 税)

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

》投稿規程《

- * 締切り：原則的に毎月10まで
- * 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- * 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- * E-mailでの投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp宛にお願いいたします。
- * 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
 - ④ 連絡先等。
- * 寄稿連絡は、^{くのり}九里 彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会修道院
Tel(03)3704-2171 Fax(03)3704-1764

「カルメル霊性センター」のホームページ

YAHOOで「カルメル霊性センター」を検索してください！！

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

『靈性センターニュース』ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。(これは郵送料です。)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会上野毛修道院
「靈性センターニュース事務局」

「上野毛靈性センター」への献金をお願い

なお「靈性センターニュース」は現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等の仕事しております。ご希望の方へ無料で配付しておりますが、コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

* 献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル靈性センターニュース

通信欄に「靈性センターニュースへの献金」とご記入ください。

* なお上野毛教会聖堂の祭壇左側の献金口や、信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金口に、直接、献金して下さっても結構です。献金袋は用意されております。



編集後記

新しい年が始まりました。今年はどんな年になるのでしょうか。或る程度の予想がつく人、そうでない人に分かれるかもしれませんが、どちらにしても、「一寸先は闇」、何が起きるか誰にも分かりません。

日本人の多くが三が日に寺社に初詣に行くのは、おそらく、そのためでしょう。人間の力ではどうしようもないことが、人生の中には必ず起こるからです。生老病死の四苦を前にして、人は皆、神仏の前で手を合わさざるを得ないのです。

この一年、私たちが神の導きに信頼して主と共に歩みましょう。

主は御名にふさわしく、私を正しい道に導かれる。

死の陰の谷を行くときも、私は災いを恐れない。

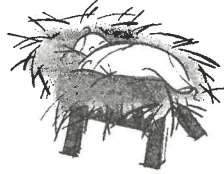
あなたが私と共にいてくださる。

あなたの鞭、あなたの杖、それが私を力づける。(詩 23: 4)

(P. 九里)

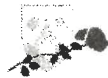


Merry Christmas
& a Happy new year



今年もカルメル霊性センターニュースのために、ご援助ご協力をありがとうございました。皆様の励ましに応え、紙面の充実に、よりいっそうの努力をしてゆきたいと思っております。これからも皆様の暖かいご支援を、お願い申し上げます。新しい年が、主の豊かな恵みで満たされますよう、お祈りいたします。

祈りと感謝！



カルメル霊性センターニュース事務局

読者の多くの皆様から、昨年も献金を頂きました。感謝の気持ちで上記のカードを個々人に送らせて頂きましたが、残念なことに、匿名で献金くださった方々には住所が分からずお送りすることができませんでしたので、記名献金者にお送りした礼状(カード)を上記に掲載しました。

匿名献金者の皆様が、この記事をお目にできることを祈り、感謝の気持ちをお受けください。ありがとうございました。

スタッフ一同

